

山口県東部地域における膀胱癌 の疫学調査

- 1994 ~ 2003年の10年間の推移 -

NPO山口県東部泌尿器科研究会

調査の概要

目的

限られた地域における泌尿器科領域悪性腫瘍のできる限り正確な発生頻度を継続的に調査し、将来的に日本人の泌尿器科領域の癌発生頻度を推計するために、我々は山口県東部地域における泌尿器科癌の疫学調査を1994年から行ってきた。今回1994年から2003年までの10年間の調査結果を検討した。

方法

- 1) 毎年1月から12月までに各医療機関で確定診断された症例の届け出方式とした。
- 2) 重複症例は主に治療を行った医療機関からの情報を主体とした
- 3) 調査対象地域以外の症例は除外した。
- 4) 当地域外で調査対象患者が受診する可能性のある医療機関には随時調査への協力を依頼した。

調査の地域

調査対象地域は種々の条件を勘案し、調査精度向上のため以下の8市、7郡とした。

[市部]

山口市 防府市 新南陽市 徳山市 下松市
光市 柳井市 岩国市

[郡部]

大島郡 玖珂郡 熊毛郡 都濃郡 佐波郡 阿武郡
吉敷郡(小郡町、秋穂町)

(平成15年3月以前の市町村合併以前の市町村名で表記)

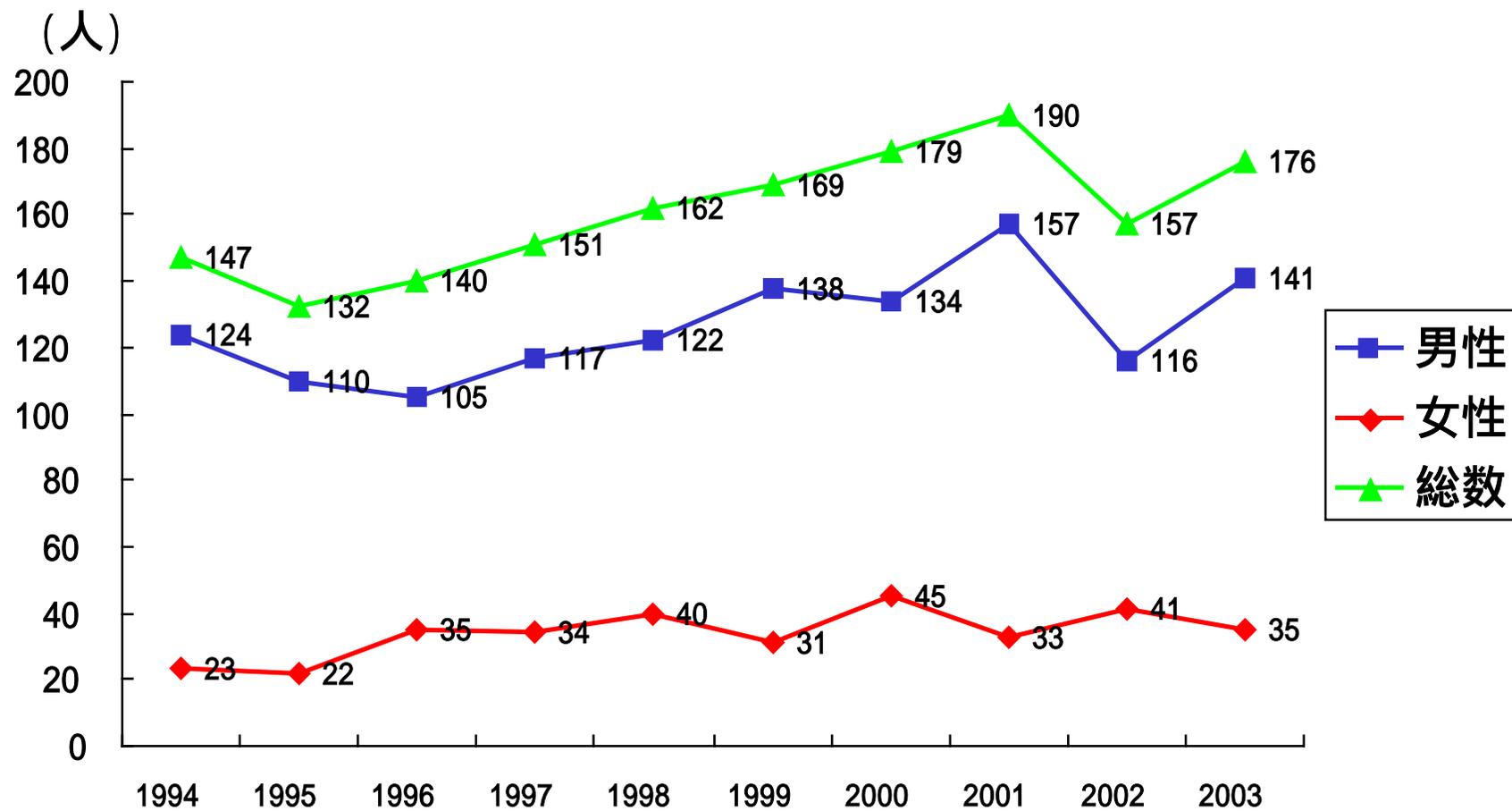
上記対象地域の各年の人口は、山口県統計課による山口県推計人口(毎年10月1日現在)を用いた。

調査対象施設

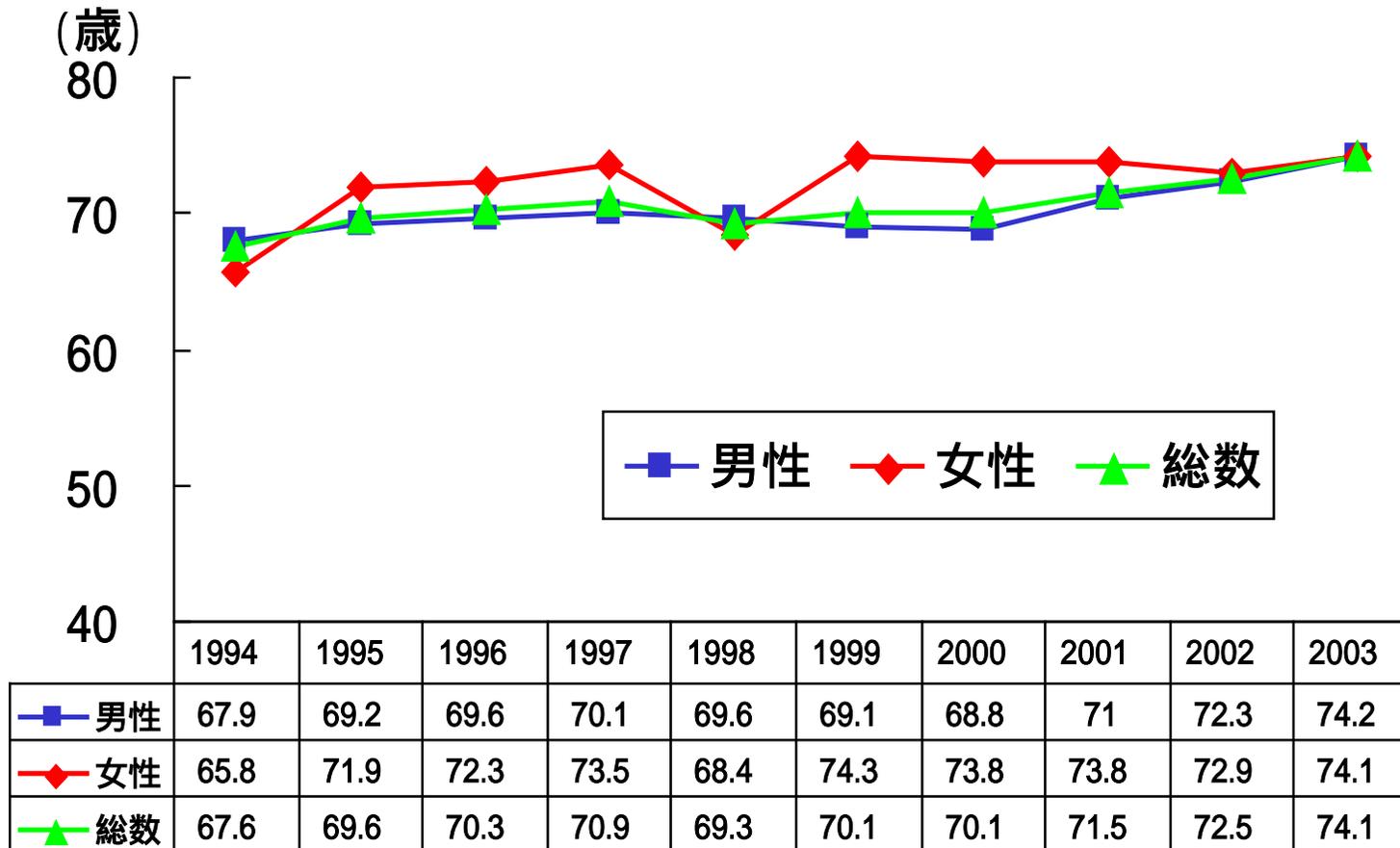
山口赤十字病院(山口市)	光市立病院(光市)
済生会山口総合病院(山口市)	国立病院機構岩国医療センター(岩国市)
本永泌尿器科医院(山口市)	(旧国立岩国病院)
ながた泌尿器科医院(山口市)	廣中泌尿器科(岩国市)
山口県総合医療センター(防府市)	いなだ泌尿器科クリニック(岩国市)
(旧山口県立中央病院)	岩国みなみ病院(岩国市)*
桑陽病院(防府市)	錦病院(岩国市)*
山口泌尿器科クリニック(防府市)	岩国市医療センター医師会病院(岩国市)*
三田尻病院(防府市)	岩国中央病院(岩国市)
社会保険徳山中央病院(周南市)	小郡第一病院(吉敷郡小郡町)
小金丸医院(周南市)	大和病院(熊毛郡大和町)
徳山病院(周南市)*	光輝病院(熊毛郡平生町)
新南陽市民病院(周南市)	平生クリニック(熊毛郡平生町)
かまたクリニック(周南市)	町立大島病院(大島郡大島町)
周南記念病院(下松市)	益田赤十字病院(島根県益田市)**
(旧徳山記念病院)	町立美和病院(玖珂郡美和町)*
しのはらクリニック(下松市)	安本医院(大島郡東和町)*
中山医院(下松市)	中村クリニック(玖珂郡和木町)
日立病院(下松市)*	錦中央病院(玖珂郡錦町)
周東総合病院(柳井市)	玖珂クリニック(玖珂郡玖珂町)*
こうだクリニック(柳井市)	国立病院機構大竹病院(広島県大竹市)**

* 泌尿器科常勤医がない施設 ** 調査対象地域外の施設

年次罹患数

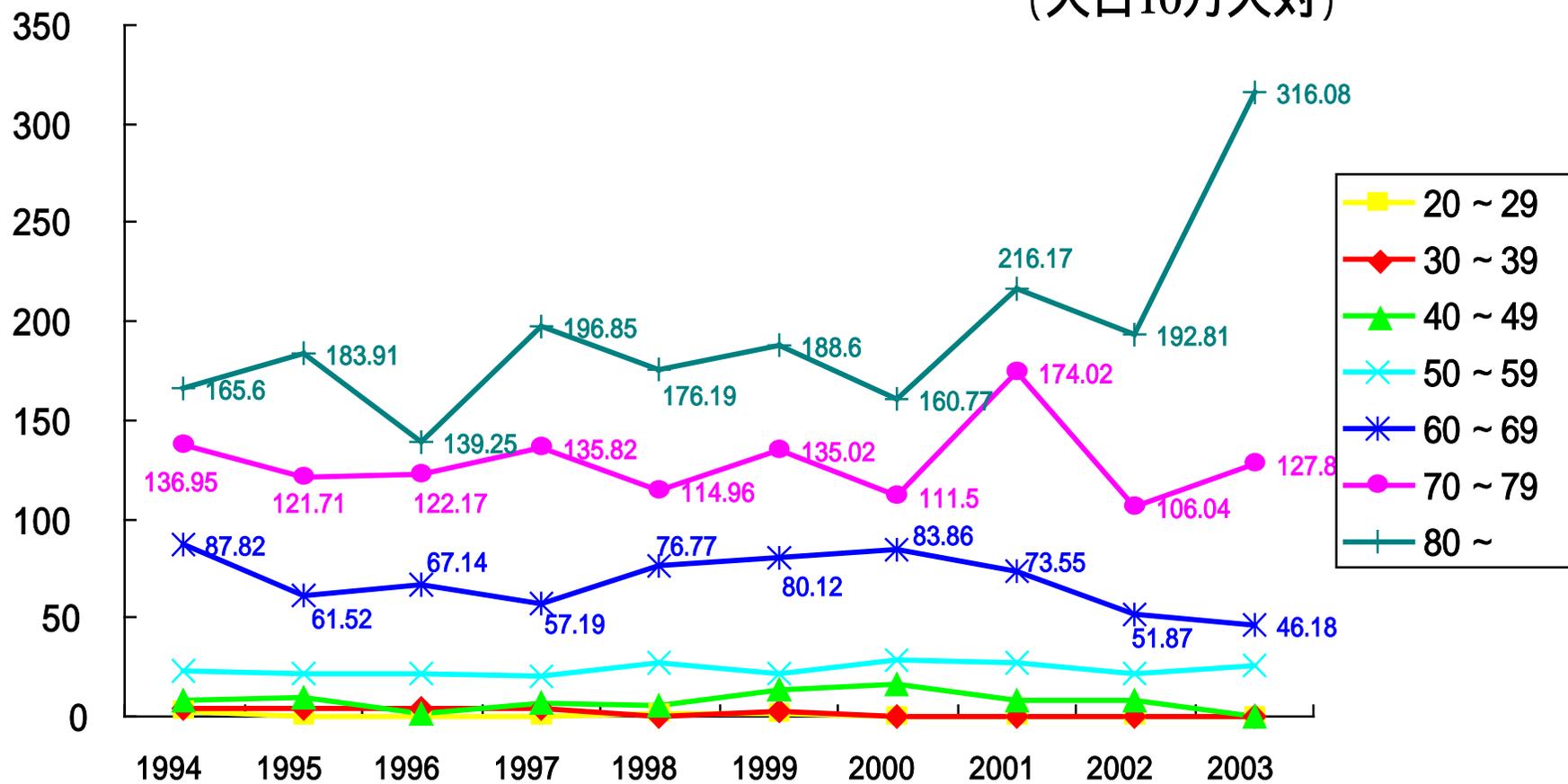


罹患平均年齢



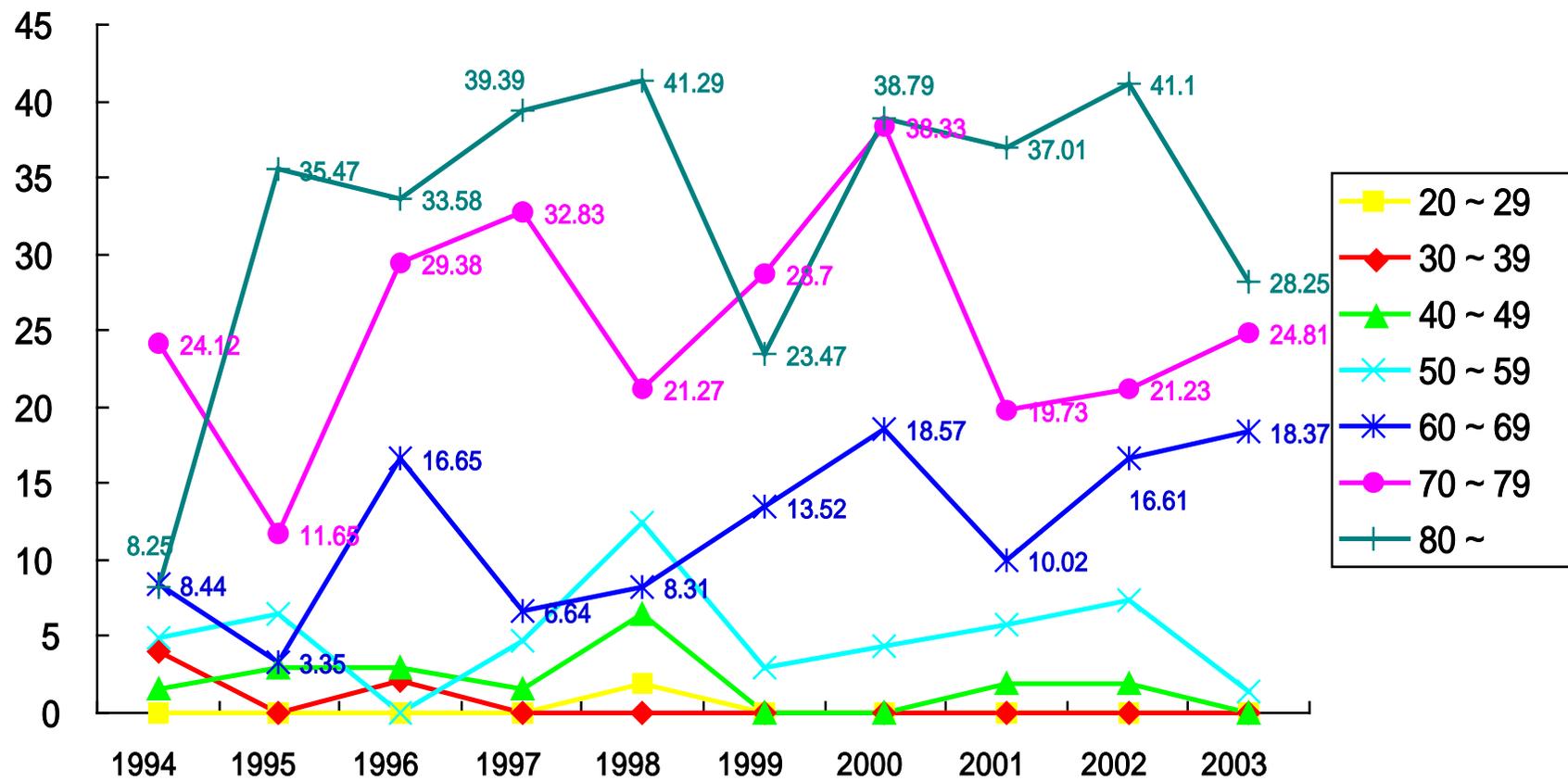
年齡階層別粗罹患率(男性)

(人口10万人対)



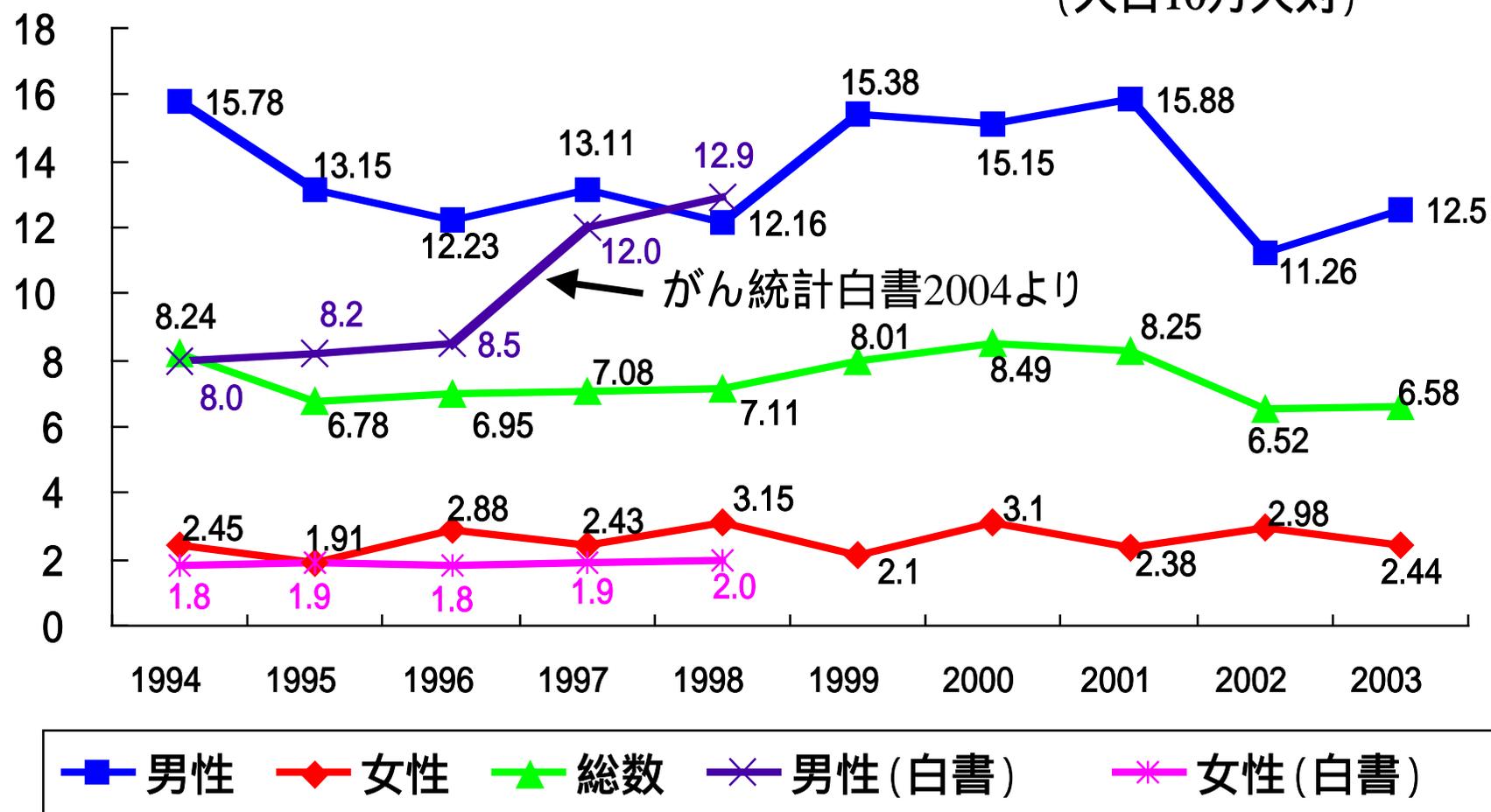
年齡階層別粗罹患率(女性)

(人口10万人対)

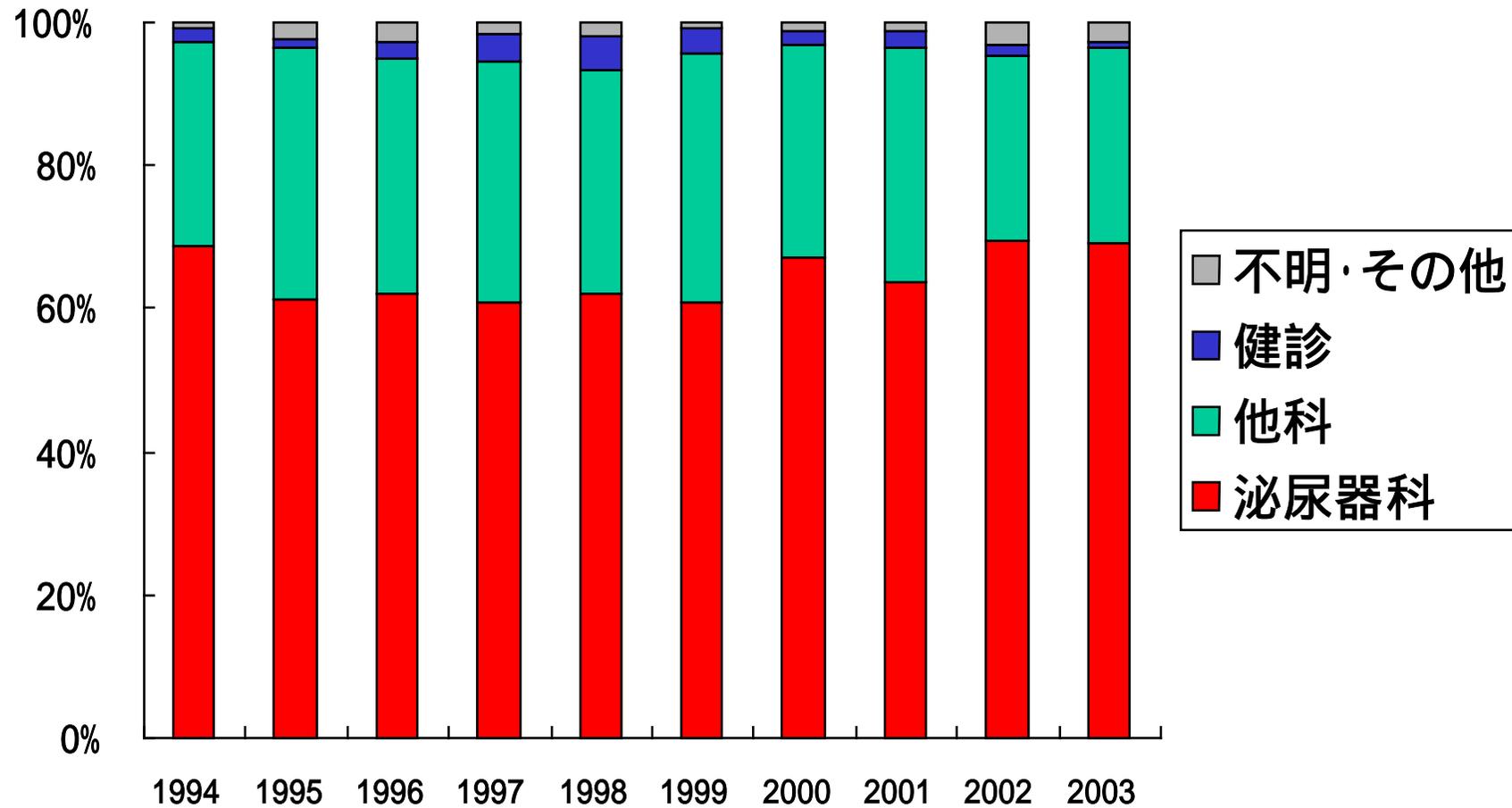


世界人口による年齢調整罹患率

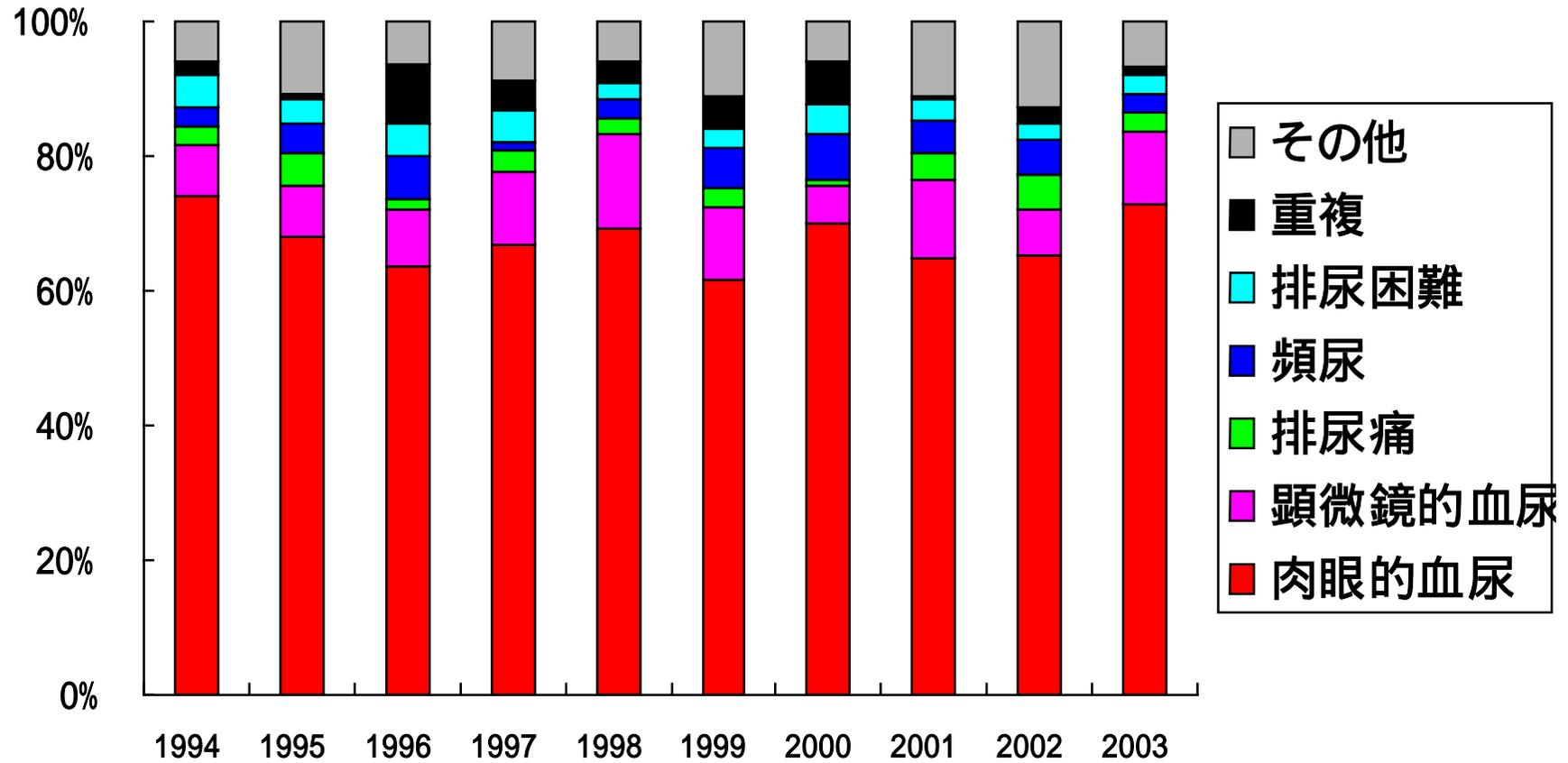
(人口10万人対)



初診医療機関

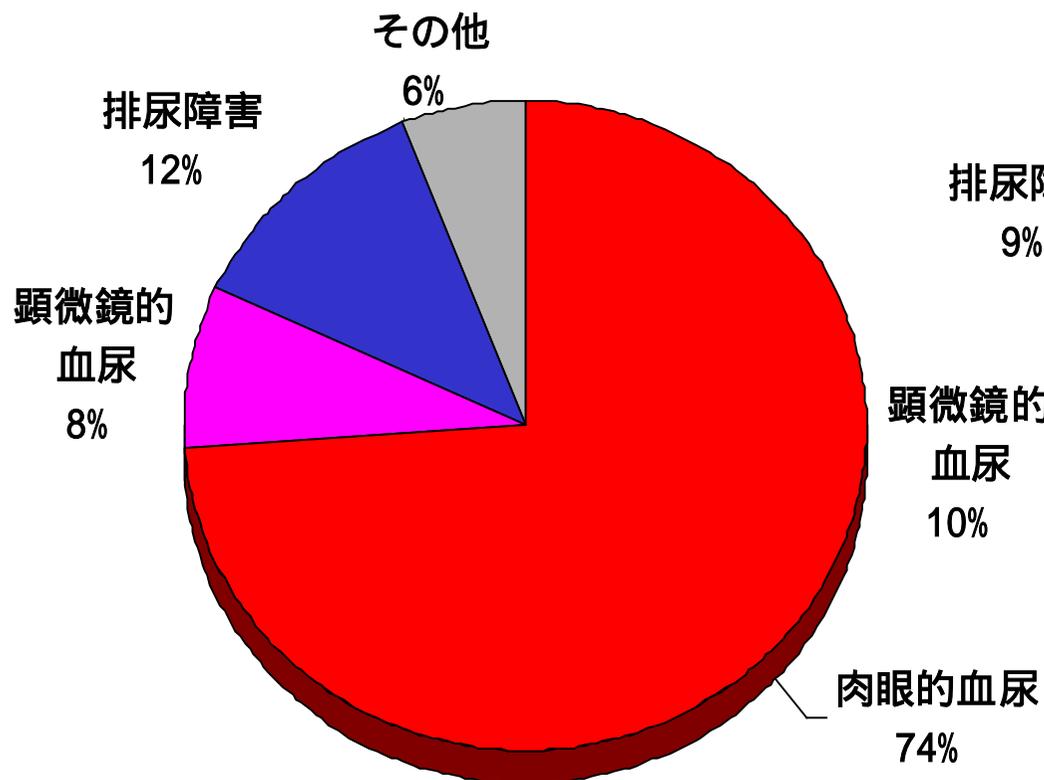


発見動機

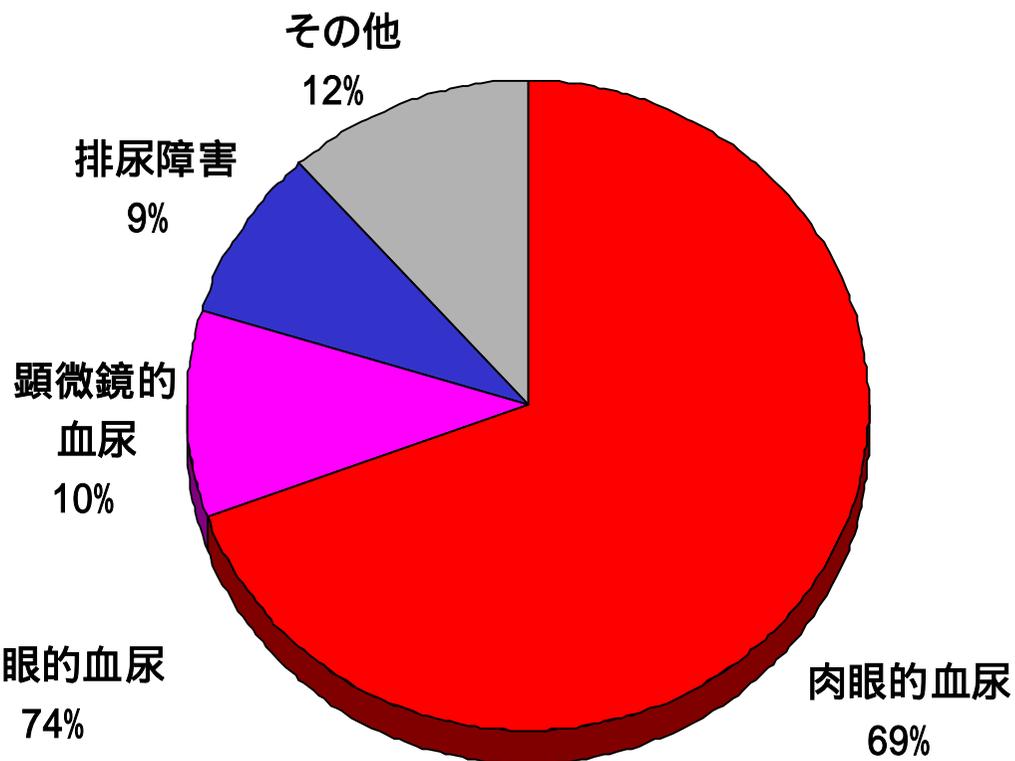


初診医療機関別の発見動機の割合 (10年間の総計)

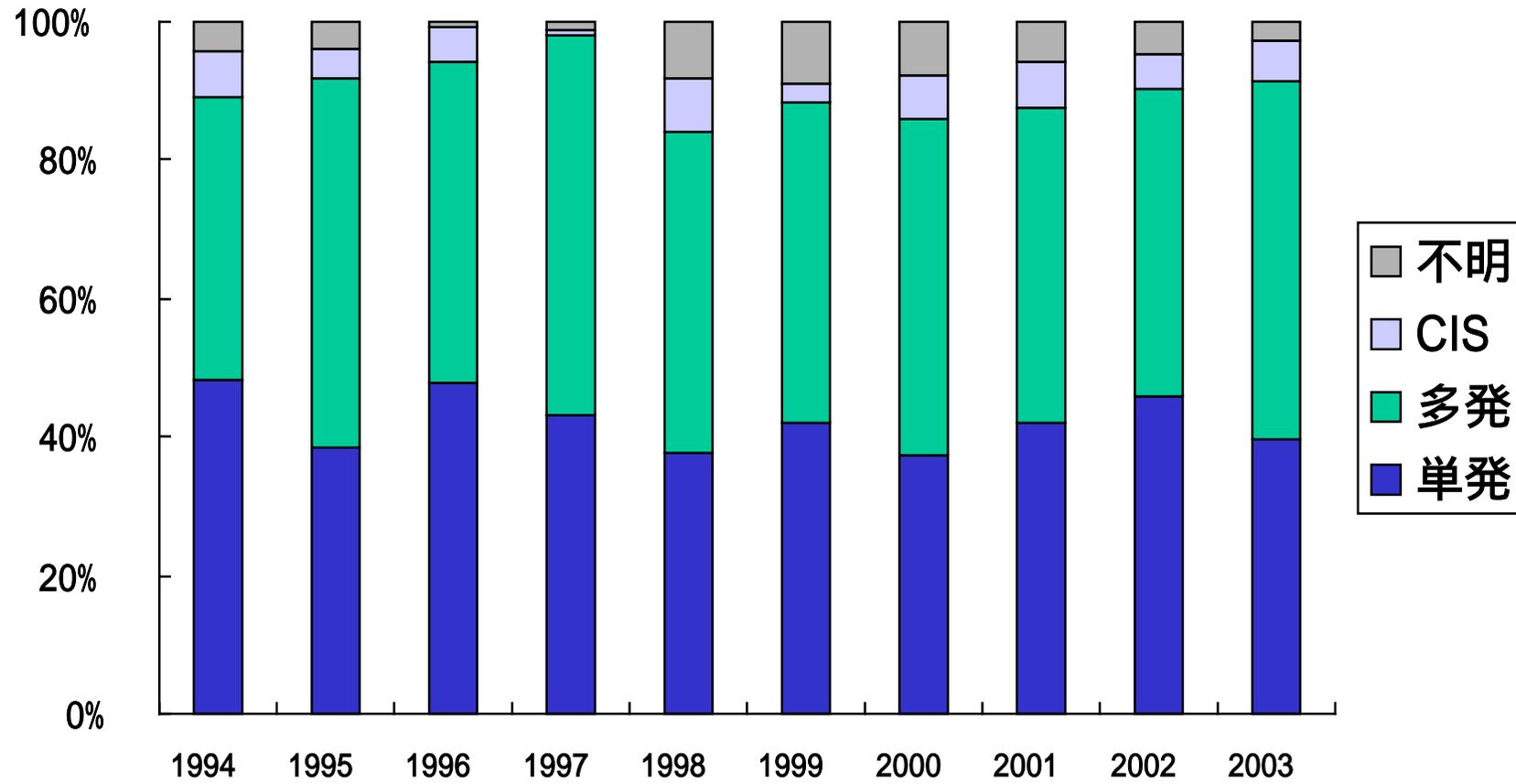
泌尿器科初診



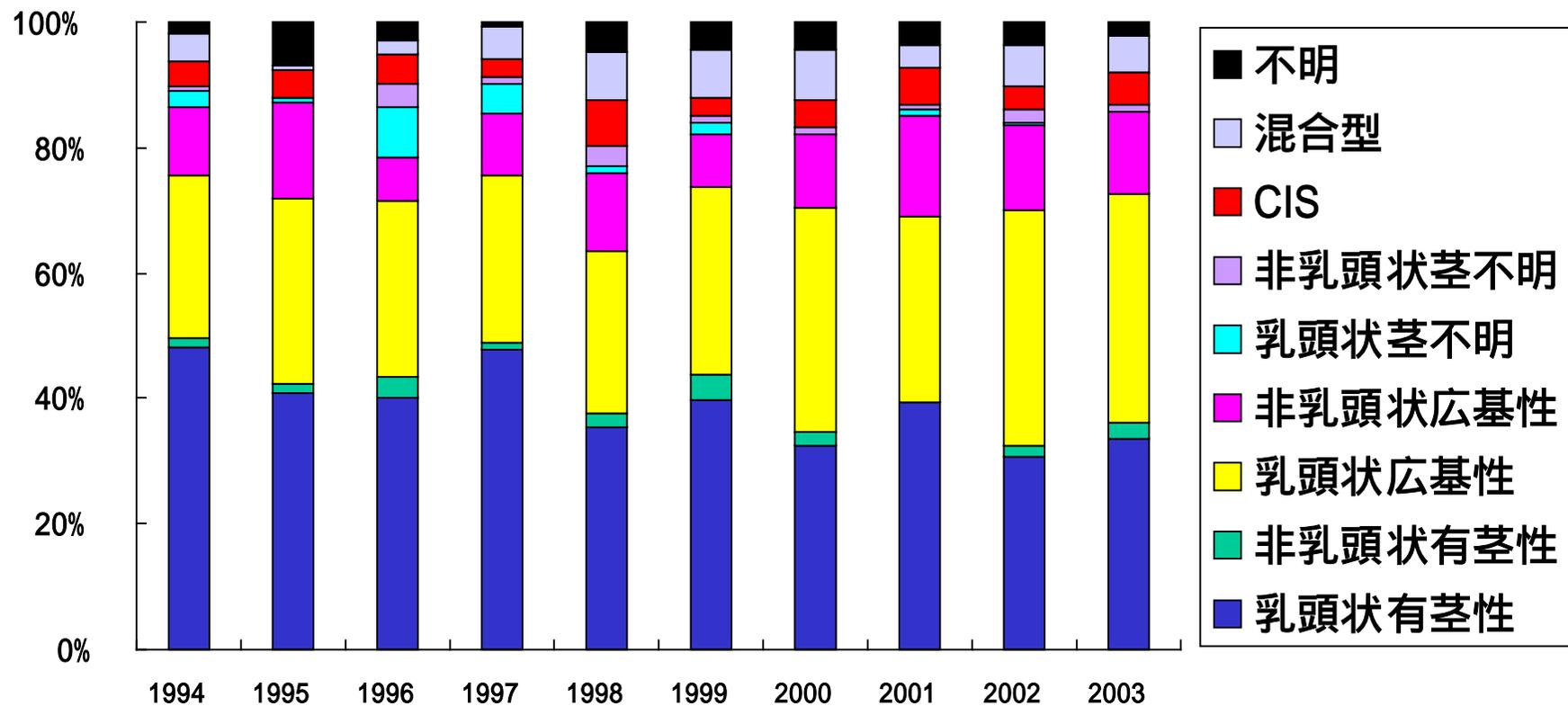
他科初診



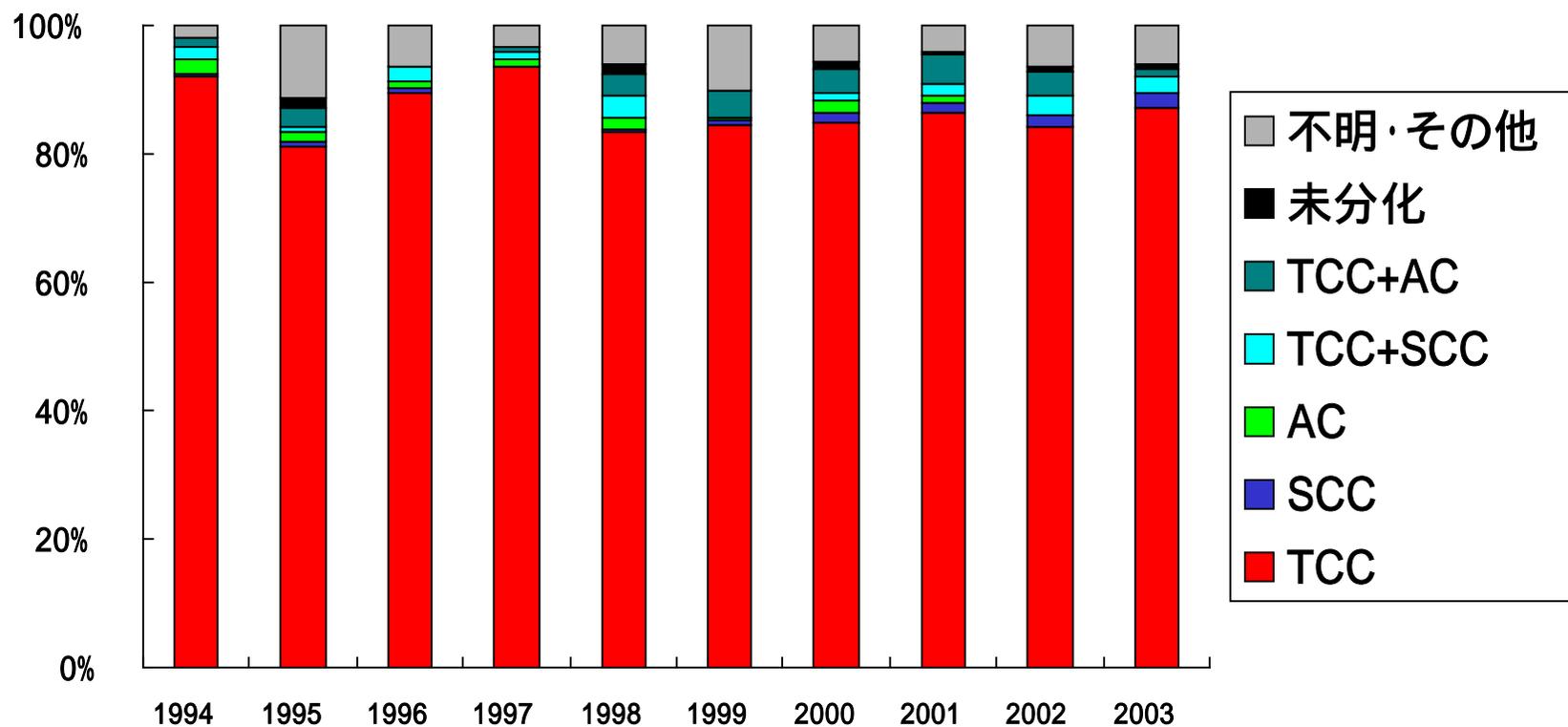
腫瘍数



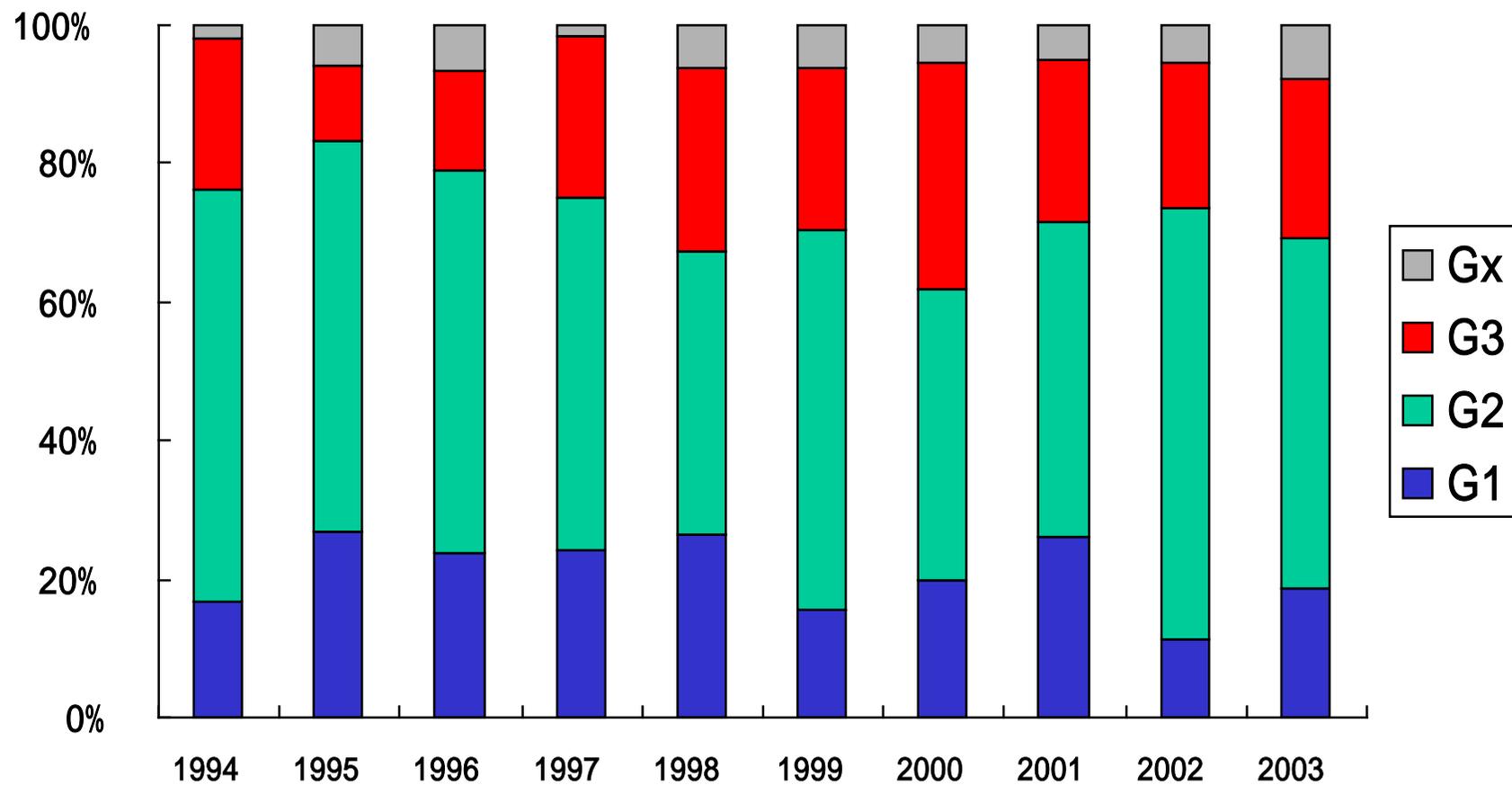
腫瘍形態



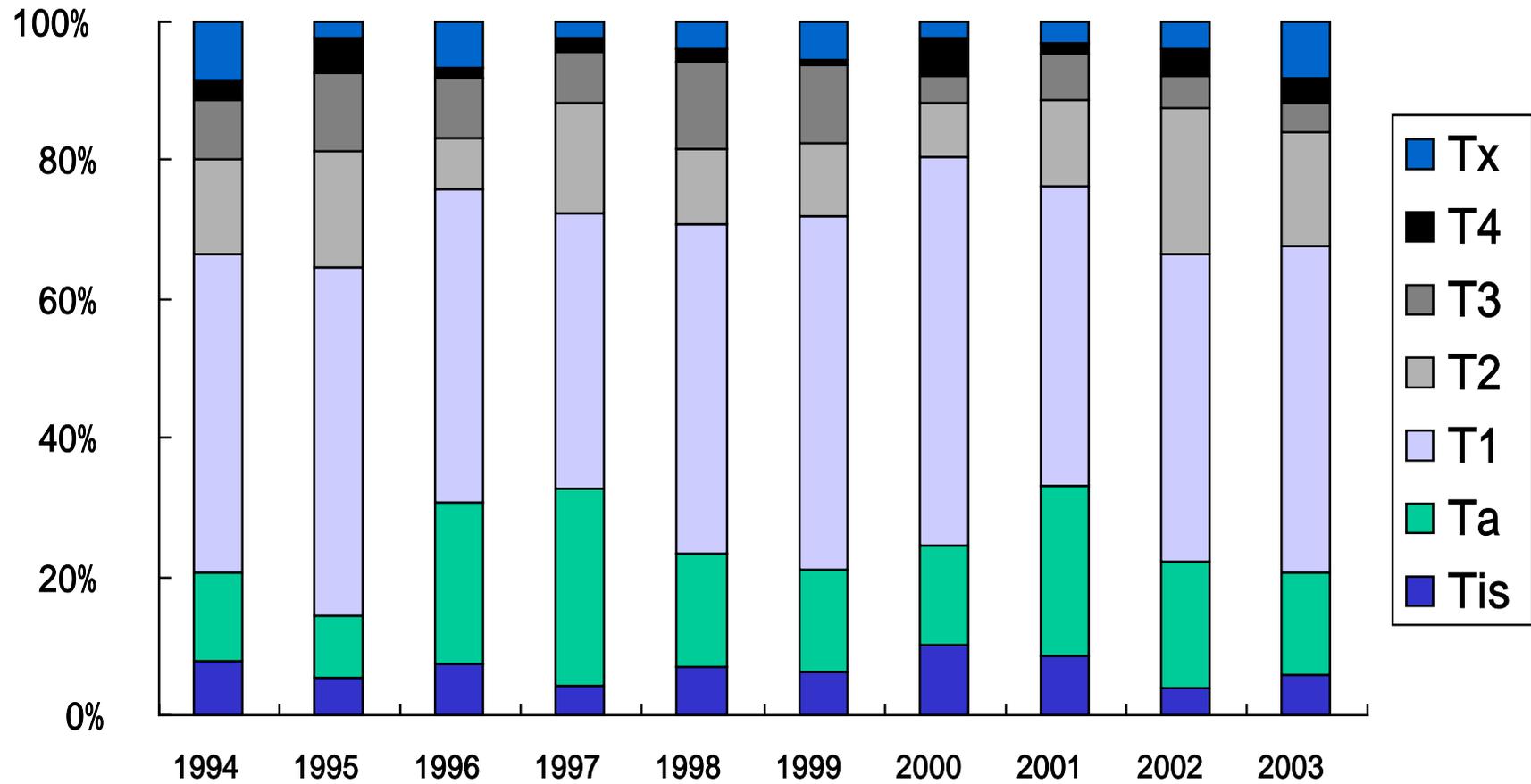
腫瘍の組織型



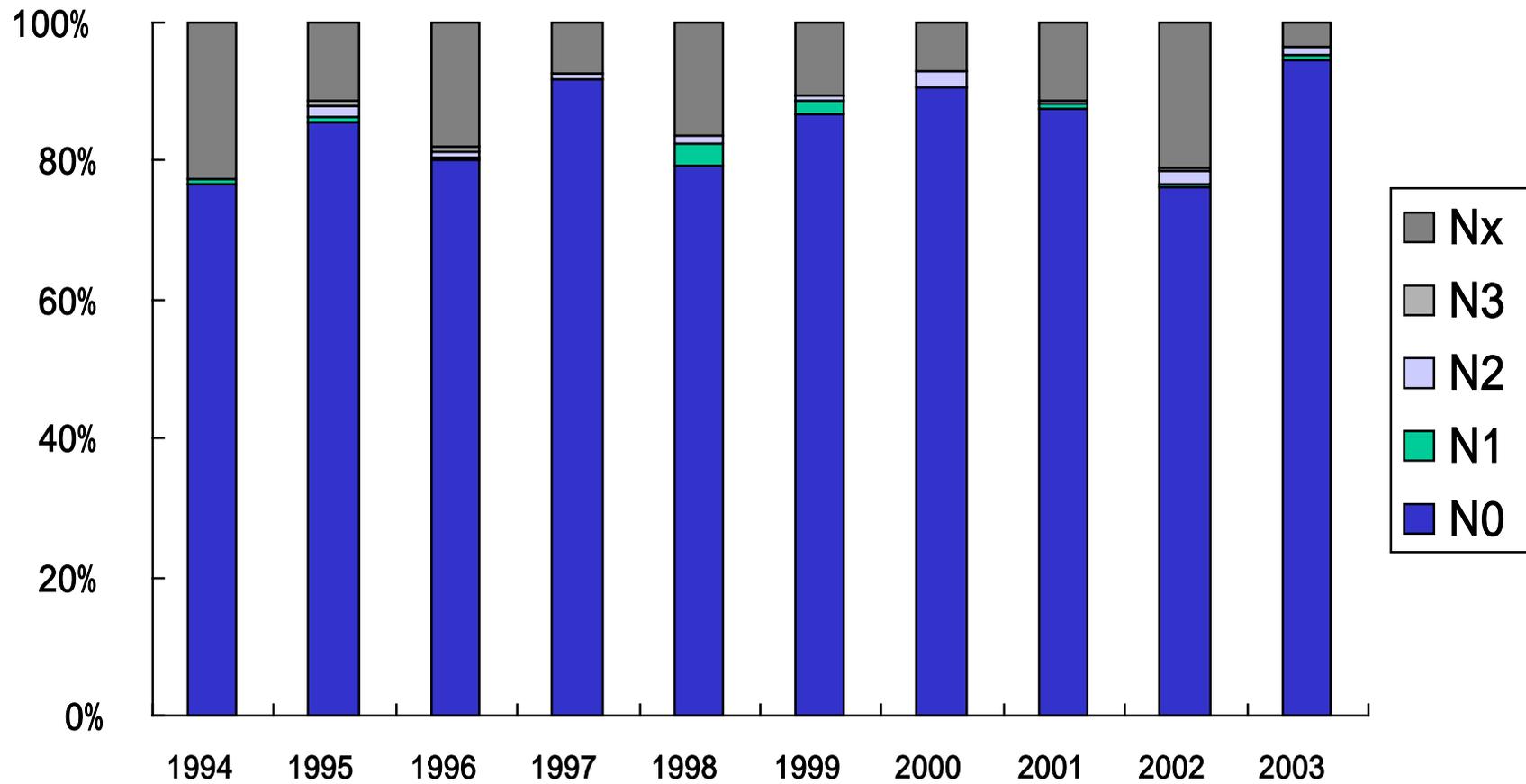
腫瘍の異型度



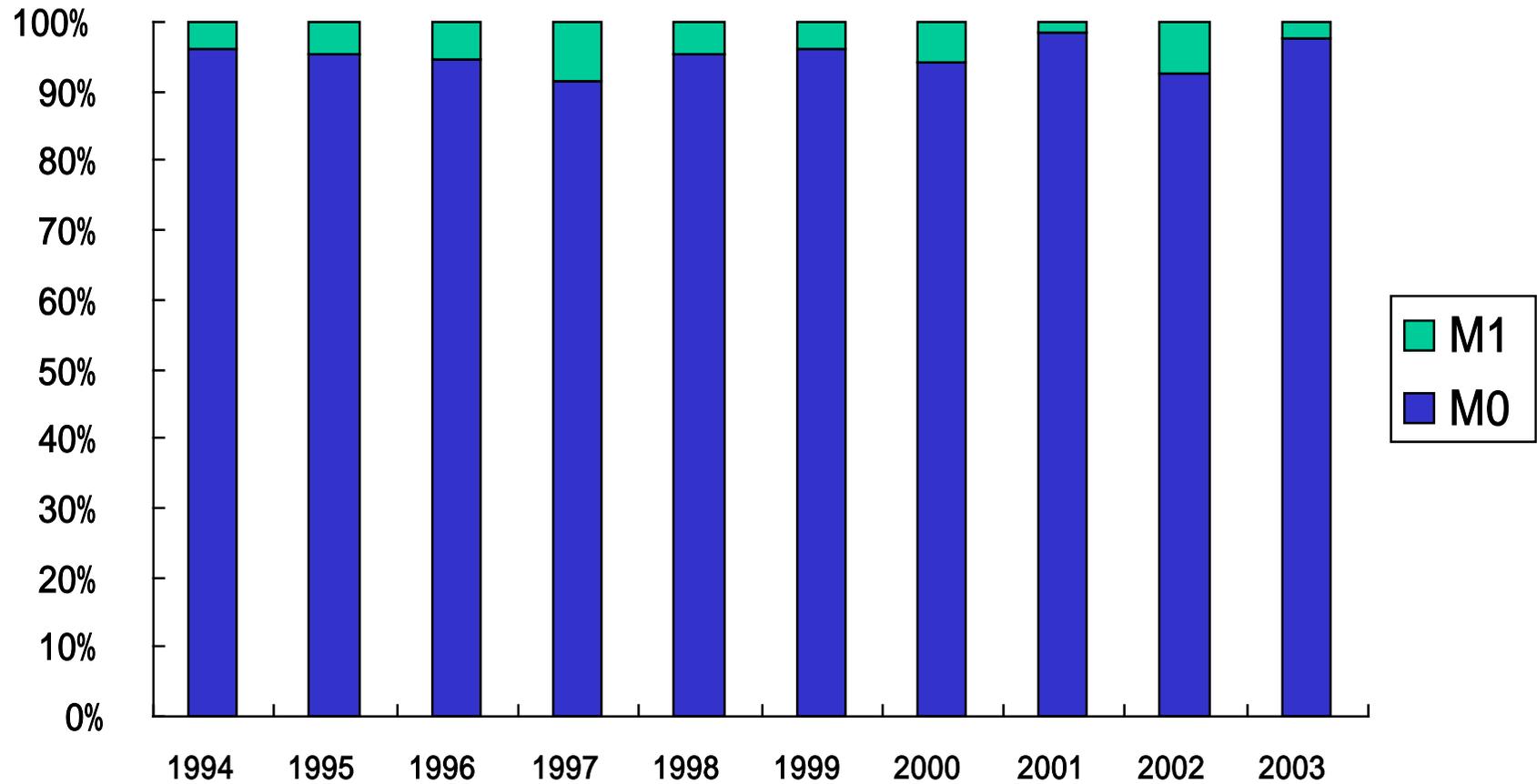
臨床病期 (T分類)



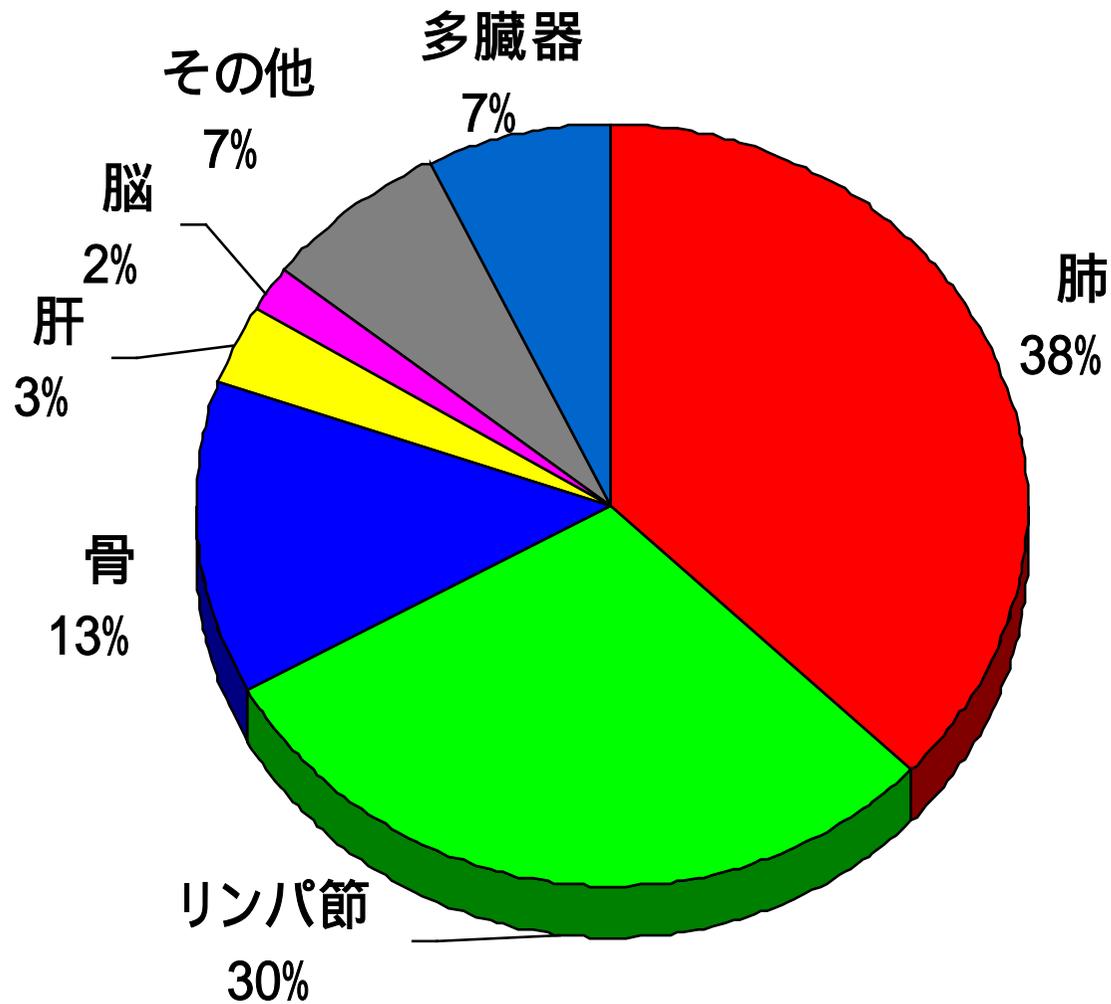
臨床病期 (N分類)



臨床病期 (M分類)



転移の部位 (10年間の総計)



まとめ1.

- 山口県東部地域での1994年から2003年までの膀胱癌の発生状況を報告した。
- 罹患平均年齢は67.6歳が10年後は74.1歳と高齢化傾向を示していた。
- 年齢階層別粗罹患率で見ると、例年男女ともに80歳以上が最も高く、次いで70歳台,60歳台と続いていた。
- 初診医療機関は例年同様に泌尿器科が61～69%を占め、発見動機(主訴)も血尿が72～84%を占めていた。

まとめ 2 .

- 腫瘍は単発37 ~ 48%, 多発41 ~ 55%で、形態としては多いもので乳頭状有茎性31 ~ 48%, 乳頭状広基性26 ~ 38%であった。
- 腫瘍の異型度は例年G1:11 ~ 27%, G2:41 ~ 63%, G3:11 ~ 33%であった。
- 臨床病期では例年 Tis:4 ~ 10%, Ta:9 ~ 23%, T1:40 ~ 56%, T2:8 ~ 21%, T3:4 ~ 13%, T4:1 ~ 5%を占めたが、経年的な傾向は認めなかった。